

# MED AGRI CLINIC かすみがうら

川上から川下までの地域の技術が結集された、  
まさにモデルとなる木に癒される診療所



南側に面する個室



大梁で組まれた4人室



スギ無垢板の大和張りの外壁

## ■ 建築概要

<b>所在地</b>	茨城県かすみがうら市上稲吉	<b>施設用途</b>	診療所（有床）
<b>構造・階数</b>	木造平屋建て	<b>延床面積</b>	323㎡
<b>事業費</b>	—	<b>木工事費</b>	—
<b>工期</b>	—	<b>設計者</b>	(株)里山建築研究所
<b>施工者</b>	(株)大崎材木店	<b>木材供給者</b>	—

## ■ 建物の特徴

かすみがうら市の屋敷林に囲まれた農家の風景を生かして内外ともに可能な限り木造で構造と内外装をデザインした。構造は板倉構法(落とし込み板壁)を基本とし、内壁、床、天井をスギ、ヒノキの厚板(3cm)のあらわしで仕上げた。無垢の木材の持つ、断熱、調湿、香り、柔らかい音、五感に働きかけるやさしい木の空間に、患者や医師看護師が包まれることを意図した。外装もスギ板張りとし、農家の佇まいを残す風景に調和させた。敷地内の一部を一般開放し、地域に開かれたクリニックとして、象徴的で親しみやすい場としている。

## ■ 木材利用における工夫点

現在県内で大量に生産されるスギの中目材の定尺材を大量に活用する構法である。

また見舞客や外来患者の利用する共用空間ではヒノキの大黒柱を象徴的に用い、スギの大径材を割った無垢の厚板でテーブルやベンチ、カウンターなどの家具内装をデザインした。これから大径材へ成長する県産のスギの有効利用を図るよう工夫した。その結果、木材使用量は㎡あたり約0.5㎡、総量159㎡に達し、通常の在来工法の約3倍の木材を使用している。

	県産木材使用量
主要構造部材	126㎡
造作材	33㎡
計	159㎡



▲左：落とし板壁施工 右：建て方の様子

